

クラブ運営方針

2008-09年度RIのテーマMake Dreams Real

会長 増 田 慎 吾

今年度のRIのテーマは「夢をかたちに」であります。そして特に〈子供達〉に対して光を当てて欲しいというのが国際ロータリー会長である 李東建氏の要望でもあります。当クラブの運営方針も、今年度のテーマにそって活動していきたいと考えております。世界に目を向けると食糧や水、そして就学さえも満足に与えられず、そのうえ十分な医療も受けられない子供たちが数多くおります。このような子供達が少しでも充実した人生を全う出来るよう手助け出来ないかとの願いが李東建会長の考えであります。

私たち高松北クラブにおいてもその方針のもとに活動したいと思っております。

ふりかえって考えますと我々の少年時代(昭和30年代)は「最早戦後ではない」と盛んに言われ国民全体が前向きに戦後復興と発展を目指し夢を追いかけていた時代だと思っております。

夢の架け橋、夢の超特急、東京オリンピック等国民が夢を抱く事のできるプロジェクトが数多くあり、国民もその実現を心待ちにしていた時代でした。青函連絡船、宇高連絡船の海難事故が昭和29年と30年に2年続けて起こり多くの命、特に瀬戸内海では子供達の命が奪われました。津軽海峡や瀬戸内海を橋やトンネルで結ぶことで、このような悲惨な事故が避けられ、新幹線の開通で首都圏が近くなり、国全体が発展していくであろうと夢を語ることの出来る時代でした。昔が良かったというのではなく、近頃は特に夢を語るには難しい世の中になっているようです。そこで我々ロータリークラブの活動の一環として子供達が素直に夢を語れるような手助けを何か、考えていきたいと思っております。当クラブのアクションプランとして過去に実績のある事業の継続を行いながら少しでも子供達に夢と希望をいただけてもらえることが出来れば、それはロータリー精神にのっとった奉仕活動の実現であると思っております。

当クラブの主なアクションプランとしての事業が以下の五つほどあります。

- ① 当クラブ主催の少年サッカー大会(今年度は第19回)
- ② 童謡唱歌の会
- ③ 当クラブ独自の奨学金制度
- ④ ミャンマーへの支援活動、バガン遺跡の修復、孤児院への寄付
- ⑤ ジュニアゴルフスクールの開催

等がありますが、以上の事業を継続することによって青少年の健全な成長に寄与出来ればと考えております。

なかでも今年度の方針としてミャンマーの子供達に対する支援につきまして考えたいと思っております。

5月3日にミャンマーを襲ったサイクロンの被害は10万人を超える甚大な被害が出ている模様です。

昨年、ミャンマーの孤児院を慰問した際、多くの小さな子供達の必死で純真なそして素朴な姿が思い出されます。

日本の子供なら馬鹿にしそうなお菓子を、礼儀正しく並んで待ち、嬉々として受け取っていた3~4歳の子供達は無事だなんだろうか?と心配されます。相手国の政治情勢もあり、支援がなかなか困難な状況ではあります。

今年度は是非とも会員の皆様方の賛同を得て支援活動を行いたいと考えております。

そしてまた、クラブにおける様々な活動を行う為にも多くの会員の方の賛同なくしては行えません。

その為に大事なことは、会員増強、ホームクラブへの出席率の向上が必要かと思っております。

次に目標とするところは楽しいクラブの運営であります。

出席するのが負担に感じるようであればクラブとして意味のないことと思っております。

クラブを漢字で書けば俱に楽しむ「倶楽部」と書きます。是非とも楽しいクラブにしたいものです。

ロータリーの基本理念で最も重要なのは私個人としては職業奉仕だと思っております。職業を通じて

社会貢献を行うのが重要であり自分の仕事を犠牲にしてロータリー活動は行えないと思っております。

本年度から会員の出席に関する規定が60%から50%に変更されました。

これは会員である以上出席することが大事であることには変わりはありませんが10%軽減されることで

出席に対する脅迫観念が少なからず軽減されるのではと思っております。出来る限りホームクラブへの

出席を促進したいと考えます。

次に委員会の開催について

4大奉仕を含め多くの委員会がロータリークラブには存在します。

委員会活動の活性化を今年度は一つの目標として思っております。

前年度は会員増強委員会の努力により素晴らしい結果を得ることが出来ました。新しく仲間となった新入会員の

方々が少しでも早くクラブに溶け込み楽しいロータリー活動を行うためにも委員会を開いて様々な意見交換を

していただきたいと思います。